シリーズ・病院

茅ヶ崎市立病院（茅ヶ崎市）

池澤優子

茅ヶ崎市立病院は、昭和18年８月に茅ヶ崎町立茅ヶ崎病院として開設され、昭和47年６月に総合病院として、現在地に開院されました。平成16年度より病床数が現在と同じ401床となり、翌年から病院機能評価の認定取得をされています。平成23年度からはリウマチ内科が新たに診療科に加わり23科となり、ICUの新設や７対１看護の導入など、地域医療支援病院として急性期入院医療や診療体制の強化が行われています。

場所は、東海道線の茅ヶ崎駅から徒歩25分、相模線の北茅ヶ崎駅から徒歩10分と、海岸地域からは遠いところにありますが、茅ヶ崎北口、南口、辻堂などから病院の敷地内へのバスが頻回に運行しており、比較的便利です。

皮膚科は、平成23年４月より前任の掛水先生のあとを引き継いで私が勤務することとなりました。これまで茅ヶ崎市立病院の皮膚科部長をされていた小野先生、掛水先生も茅ヶ崎市で開業されているので病診連携においても、非常に心強い限りです。前任の掛水部長の頃から常勤医が１名増員となり、現在３名で診療を行っています。樋口先生、小野先生の頃に新病院設立の際設計された皮膚科外来は、広いブースに処置室や外来手術室も兼ね備えており、おかげさまで快適な診療ができています。平日午前中の外来は一般診療で、月曜日から木曜日の午後は小手術、ざ瘡に対するケミカルピーリング（グリコール酸など）・ビタミンＣイオン導入、陥入爪に対するワイヤー治療やクリッピング療法などを中心に、学童外来や皮膚テスト（パッチテスト・プリックテスト）なども行っています。形成外科がないために、皮膚悪性腫瘍の手術はある程度は限られてはいますが、外来では生検や良性腫瘍を中心に行っており、入院手術も週１～２件、脂肪腫などの良性腫瘍から、

茅ヶ崎市立病院皮膚科外来スタッフ
前列左：大澤先生、前列右：筆者、後列右：梅本先生
後列左より：外来看護師、外来スタッフ

有棘細胞癌や基底細胞癌などの悪性腫瘍の手術や潰瘍に対する植皮術などを局所麻酔あるいは全身麻酔で行っております。病理も去年の３月までは１人で、今年４月から２人の先生がいらっしゃいますが、多忙ななか特殊染色なども快く行っていただき、非常に有難い環境です。

入院は帯状疱疹や蜂窩織炎などの感染症や中毒疹が主ですが、薬疹やアナフィラキシーなどのアレルギー性皮膚疾患や水疱症、膿疱症なども比較的多いように思われます。病棟は去年の４月から病棟再編成で以前の外科系病棟であった３西病棟から、呼吸器・循環器内科といった内科病棟である４東病棟へ移動しました。当初は看護師も外科的処置に慣れない様子でしたが、スタッフもみな真面目で皮膚科病棟勉強会なども開催され、積極的に皮膚疾患を学んでいただいています。１年近く経った現在は帯状疱疹患者に対する対応も慣れ、褥瘡や潰瘍などの皮膚科的処置も効率よく行えるようになりました。また、

内科の先生方も最初、新参者であった私たち皮膚科スタッフを快く受け入れていただき、当科の患者さんが急変を起こした時もすぐに対応していただきました。科を超えた相談や併診などは、忙しいと時としてお互い煩わしいこともありますが、私たちが自分の専門と同等に他科の分野を網羅するのは不可能です。大切なのは互いの専門である領域には誠意をもって対応し、他科を尊重し、お互い感謝の念をもって快く協力し合っていくことだと思います。

また、医療制度の変化から、地域医療支援病院などの役割が重要視されている近年、皮膚科の中でも、他の病院の先生方や開業医の先生方と患者さんを紹介し合い情報を交換していく必要性がより強くなってきています。茅ヶ崎市立病院の皮膚科スタッフは去年４月から私と大澤先生が着任し２人が交代となり、７月から以前より勤務されていた伊藤先生が退職され松浦先生が着任し、全く新しいメンバーでのスタートとなりました。あっという間の１年間でしたが、更に2012年４月からは松浦先生が大学へ異動され、梅本先生と交代となりました。茅ヶ崎市立病院の皮膚科としては小野先生以来の男性医師とのことで、またカラーも変わってくるように思います。全員が平成10年以降の卒業で、医師としての経験、人生経験もまだまだ未熟で、頼りないと感じられる先生方もいらっしゃるかもしれませんが、スタッフの診療に対する熱意と積極性は十分あると思っています。当初慣れない私たちをサポートしてくれた、看護師はじめ、経験豊かなコ・メディカルに囲まれて恵まれた中で診療を行えています。更に近隣の経験豊かな先生方に支えられてのスタートは心強い限りで、これからも些細なことでもご意見、ご指導いただければと思いますので、スタッフ一同よろしくお願い致します。

横浜市立みなと赤十字病院（横浜市中区）　並木　剛

横浜市立みなと赤十字病院は、旧横浜市立港湾病院と旧横浜赤十字病院が統合され、旧横浜市立港湾病院の隣接地に建設された病院で、平成17年４月より開院となっており今年で開院以来７年目となります。横浜市により建設設営がなされた病院でありながら、運営経営は日本赤十字社が行っており、日本赤十字社が指定運営者と位置づけられています。横浜市の急性期医療を担う高度な総合医療施設として35診療科・緩和ケアセンター・アレルギーセンター・健診センターから成り634床を有する地域の拠点病院となっています。当院は政策医療として、24時間365日の救命救急医療、小児・周産期・精神科救急医療、緩和ケア医療、アレルギー疾患医療を行っておりますが、特に皮膚科診療に密接に関連する医療としてアレルギーセンター・救命救急センターがあり、また今年より新たにがんセンターが開設されることとなっております。当科としてもこのような病院全体の機能を生かしながら皮膚アレルギー、救急皮膚科医療、皮膚腫瘍外科の３点に重点を置いて地域医療を展開していきたいと考えております。

現在、皮膚科は医師３人体制で部長の並木、医員の野嶋、後期レジデントの奥野（４月より石田に交代）にて診療を行っていますが、皮膚アレルギー医療をより充実させるため当科においてもアレルギーセンター内に皮膚アレルギー専門外来を４月より開設し、東京医科歯科大学皮膚科の横関教授を招いて診療に参加して頂く予定にしております。当院のアレルギー医療の特徴としては、各科のアレルギー関連診療をアレルギーセンター内で行うシステムとなっており、アレルギー科はもちろんのこと小児科、呼吸器科などと密接な連携を取りながら皮膚アレルギー診療を行えることにあります。当科でもこの利点を生かしながら、アトピー性皮膚炎、食物・薬剤アレルギーのアレルゲン検索などを進め皮膚科診療に役立てていきたいと考えております。救急医療に関しては、当院の救命救急センターが断らないことを基本としているため当然ながら皮膚科領域におい

ても多様な救急疾患を有した患者さまがWalk inだけでなく救急搬送にても当科を受診します。特に皮膚細菌感染症は重症化してから救急搬送されてくる症例も多く、フルニエ壊疽を含め多様な部位の壊死性筋膜炎の患者さまが受診されます。初診時急性期には一刻も早いデブリードメントと輸液管理・抗菌治療が要求されるため当科では救急部および集中治療部と協力して迅速でより適切な対応をできるように努めております。また最近、高齢者の皮膚がんの発症が増加傾向にありますが、この傾向を反映してか当科においても比較的高齢者の皮膚がん症例が増えてきております。基底細胞癌やボーエン病など上皮内に限局した症例が大部分を占めますが、所属リンパ節転移を伴う可能性のある有棘細胞癌や悪性黒色腫などの患者さまも受診されます。このような症例の場合、センチネルリンパ節生検を施行しより適切なStagingの把握とより早期での郭清術の施行に対応できるようにしております。

外来診療は、月曜日から金曜日までの毎日の午前中、３診体制にて行っております。１日の外来患者数は60～80人ほどですが、より正確な診断をモットーに皮膚生検を可能な範囲でしっかりと行っていくようにしています。また外来手術は火曜日と水曜日の午後に行っております。外来診療においては、特に地域の病院の皮膚科の先生方および開業の先生方との連携は重要と考えており当科で行った皮膚生検および切除標本に関してはレポートとして紹介元の先生方に返送し、紹介した患者がどのように治療されて、どのような経過をとっているのか把握して頂けたらと考えております。また入院患者につきましても退院後の経過がはっきりとしてきた段階で退院後報告として紹介元の先生方に返送するようにしております。

後列左より：増山さん、辻さん、朱さん、大津さん
前列左より：奥野先生、著者（並木）、野嶋先生

さらに診療を充実させ地域の皮膚科専門医の先生方との連携を密にして、より横浜市および周囲に地域医療に貢献していきたいと考えております。今後ともによろしくお願い致します。

神奈川県立汐見台病院（横浜市磯子区）　田村暢子

当院は昭和38年に汐見台診療所として開設されました。昭和39年に増築し、汐見台病院と改称、昭和49年に神奈川県衛生学院付属汐見台病院となり、昭和54年に公立・民営（県立・神奈川県医師会運営）の神奈川県衛生看護専門学校付属病院となりました。その後標榜科の追加、病院の増改築などを経て平成17年に神奈川県立汐見台病院に改称、県医師会が指定管理者となり現在にいたっております。14科225床の急性期病院です。皮膚科は昭和54年に非常勤医体制ではじまり、昭和56年には常勤医１人体制となり、平成18年まで続きました。その後非常勤医体制となりましたが、平成21年４月から再び常勤医１人体制となりました。常勤医の研究日には週１日非常勤の先生が外来をしてくださいます。

当院はJR根岸線の磯子駅または、京浜急行上大岡駅か屏風ヶ浦駅からバスで10分ほどの丘の上にあります。すぐ近くに久良岐公園という大きな公園もあり、通院、通勤の時に春の桜、秋の紅葉、どんぐりと自然を感じられる良いところですが、病院周囲に冬の積雪が長く残る困った面もあります。

腎疾患診療と産科周産期医療が当院の政策的医療

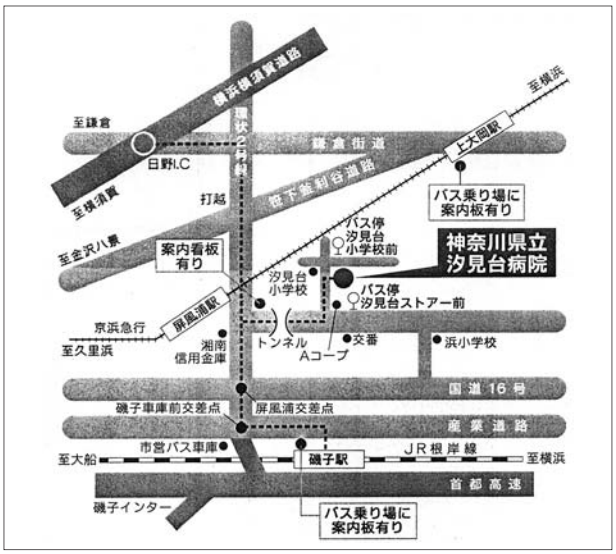
であるため、外来でも透析中の方や妊婦さん、新生児、乳児を診ることが他の病院より多く日々勉強の毎日です。また、前院長が小児科であったこともあり小児科の先生方が多いので、ときどき皮膚科領域の相談もあります。筆者は当院着任前に産科、小児科のない病院で９年間勤務していたため、久しぶりにみる疾患もあり、興味深いです。

当院の元看護師長でフットケアの勉強をした方が、週１度外来にきてくれます。糖尿病の方や透析中の方の巻爪などを中心に処置してくれます。とてもよいので予約がパンク状態です。

外来スタッフと（後列左より：フットケアナース青山さん、筆者、前列左より；事務の高島さん、外来師長の弘末さん）

常勤医１人体制のため、重症例などは周辺の大きな病院へお世話になることも多く、この場を借りてお礼申し上げます。また、逆に周辺の開業の皆さまには、総合病院であり、入院施設もございますので入院適応の方がいらしたら、お気軽にご紹介下さい。

今後とも地域医療に貢献していきたいと思います。ご指導、ご鞭撻のほどお願いいたします。



病院地図